

2024 8

# ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

須藤滋子 秋山義仁  
井村清美 広井まさみ

\*\*\*

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

\*\*\*

芙貴子ワールド／松本芙貴子  
偶然の糸を遊ぶ【2】

\*\*\*

6月号作品批評／宮本史一(心の花)

\*\*\*

アナログ人間／本田じゅん

\*\*\*

現代文 知識ノート【7】／二方久文



# NILE CAMPUS

302

伯梅閑話 —— 東横有名会 ——

小村井敏子（五代目神田伯梅）

昔の講談には、前座になる前に客を呼び込むため、客が入る前に出る空板（からいた）があり、二つ目はなかった。真打になるまで前座。最後の空板が前座になって幾星霜。伯梅から伯治になったのが、昭和二十二年四月の東京渋谷、東横百貨店別館（のちの東横百貨店東館）の東横有名会だ。渋谷は、今、一大都市開発中で、変貌を遂げつつあるが、当時、一階は食品の名店街（のちの東横のれん街）。二階に映画館が三つ、三階に、有名会（吉本興行）と漫才を主にやっていた吉本演芸場があった。私にとって、渋谷は最寄り駅。ふるさとの街と言ってよい。東京と横浜をつなぐ東横線の始発駅だった。東横劇場の東横落語会で、金原亭馬生を聞いたことを覚えている。他の出演者は記憶にない。高校生の頃だ。それほど、心に残る芸だったが演題は覚えていない。

今では考えられないことだが、その頃、吉本演芸場の前には劇場があり、ストリップをやっていた。日本初の全身裸の全ストだった。日本初のストリップは、この劇場ではなく、額縁の中で、ポーズをとった裸体の女性が静止しているのを見せる昭和二十二年一月の新宿帝都座、額縁ショウだ。渋谷のストリップは、それと同じ年だった。このとき、のちの直木賞作家、田中小実昌が裏方をしていて、渋谷のストリップは、白系ロシア人で、ベールをまとって、舞台を一周して横向きになり、ベールをはらりと落としたところで幕になる。ただ、それだけだった。が、それまで、舞台で女性の裸体を見ることなどなかった日本人には経験のないことだったから、ベンチのような椅子が身を乗り出した方々の力でバリバリ壊れるくらいだった。柳橋さんがそれを見るのに一人で行けず、新しい伯治は毎日つきあわされた。彼女に盲腸の痕があったのを伯治は覚えてい

る。  
（ナイル2005年6月号より）